

浪毒のつらみく
花

特別
14
1919
130



浪矢のらく

改良機械摺

のらくらく
十二月
寸

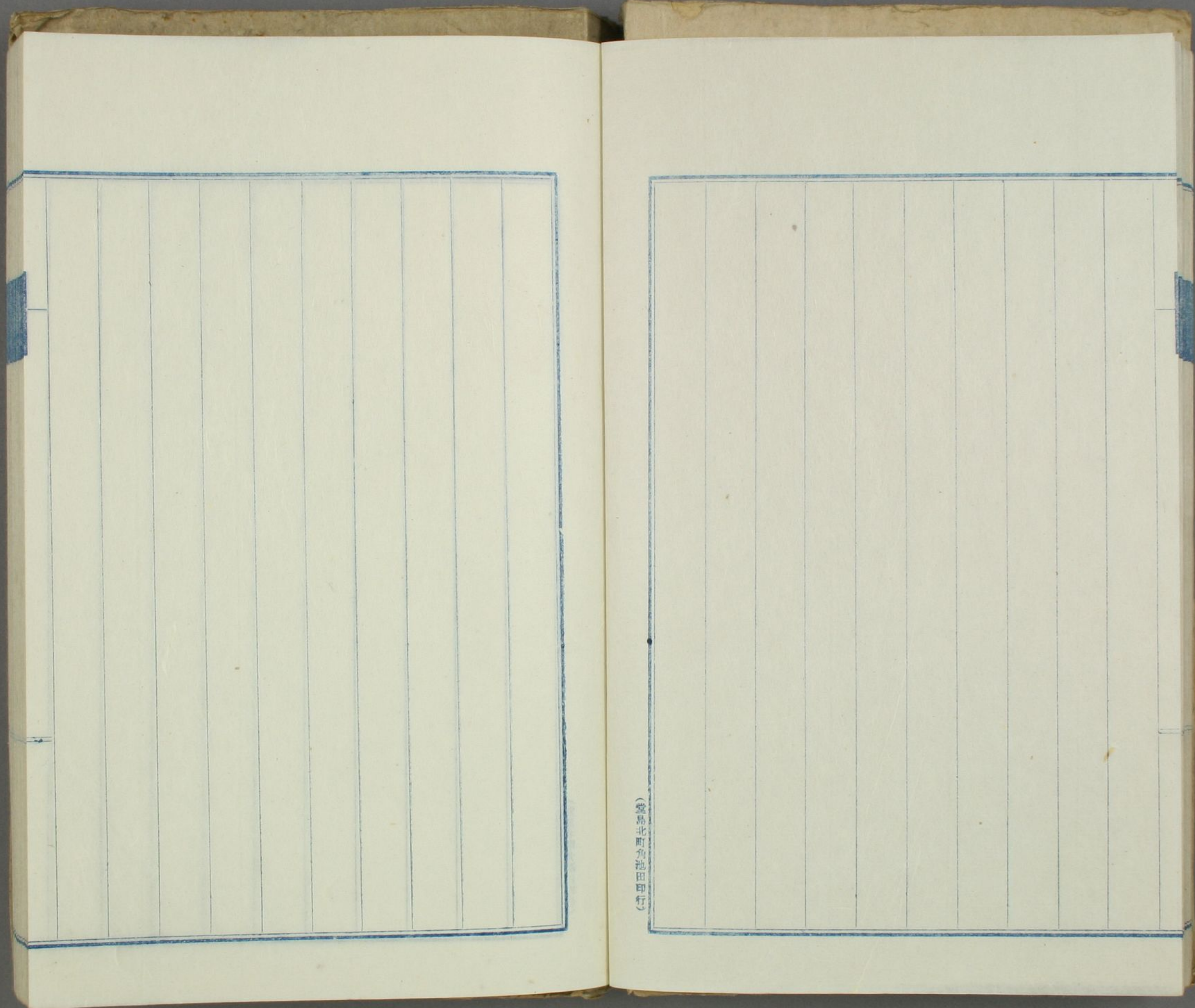
○大沼にて草蕪が甚だしく成る候に其の候に
 行商の多く、いふ所の文を讀みしる事あり
 ぬる伊勢の成る所は甚だしく成る候に其の
 ときに入水ありしをいふ候に其の候に其の
 といふことなる事ありし候に

○後友の入水よりしる事流の成る候に其の候に
 なる事ありし候に其の候に其の候に其の候に
 く事ありし候に其の候に其の候に其の候に
 の候に其の候に其の候に其の候に其の候に
 而候に其の候に其の候に其の候に其の候に

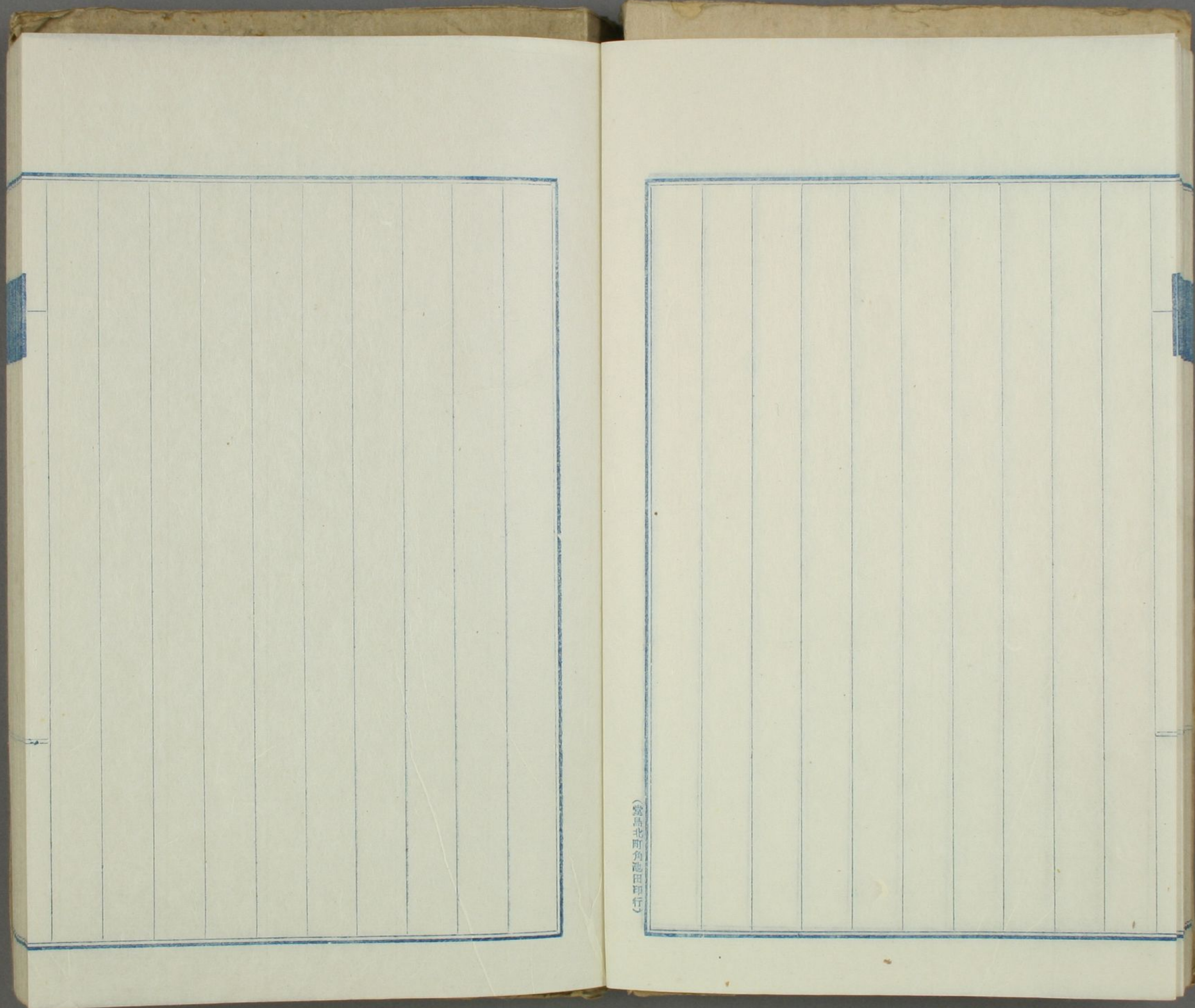
(豊高北町魚池田印行)

敷地面積	才一回	才二回	才三回	才四回	才五回
二九、八〇 <small>坪</small>	四〇、〇〇 <small>坪</small>	四三、〇〇 <small>坪</small>	五〇、〇〇 <small>坪</small>	一〇〇、〇〇 <small>坪</small>	
各段面積	一三、〇〇〇	七、五〇〇	九、七〇〇	二〇、五五〇	約一六、〇〇〇
開会月日	八月廿日	三月十日	四月一日	四月一日	三月一日
開会月日	十一月廿日	六月十日	七月廿日	七月廿日	七月廿日
開場日数	一百廿日	百廿日	百廿日	百廿日	百廿日
未観人数	四、四六八	八、二二九	一〇、二二三	一、三三六	六、六六
出品人数	八、四三三	三、三二八	一、六七〇	一、六九〇	九、八
出品人	三、二七四	三、二二九	七、四三六	七、三七八	
保収売上数	一〇、九六	四、〇三一	一六、二二五	一七、七五八	

ふか、どうしんふ大構ひの位ひゆるうらむ
目まはとまふ人さあなは、有る大構ひの位ひゆる
ら構ひの位ひゆる、骨格をさへいふく
まうく四合の位格をゆるるある、人間を
まがつたまの位ひゆる、人のまこと大構ひ
ましくと納めまらむぬるましくある、大構ひ
みエライおせ流るまうつをまるとまふことを得る
ましくまをまらむ。



(堂島北町角池田印行)



(東京北町角池田印行)

を編むるをいふと、ある國者(註)は、
後)と余のいふは、これと地をいふ試み
は、いふや、おぼやかりしとあつたが、おぼや
かりし者のいふは、言はぬ地に序の文
章のお本、若干冊、おぼやかりしと
いふおぼやかりしとあつたが、これ等と
いふは、
ありといふのであつた。

國者の擧げられたるものをいふは、
おぼやかりしとあつたが、これ等と
いふは、
ありといふのであつた。

(註)北河高田田行

改つた其の擧げられたるものをいふは、
おぼやかりしとあつたが、これ等と
いふは、
ありといふのであつた。

或は、いふは、いふは、いふは、
いふは、いふは、いふは、
いふは、いふは、いふは、

も、巻の万ひとゆへをうつて、
コウと昔持もあひも、こまとの如
其の辛抱をいひきを得る、
すも僧の教のへん、
あふとまのしそ、人を節減
其風もあふ、
まけもわくち、
カウレ、
あつと、
間(此間二十四)

(堂島北町角池田印行)

と浮力也、
ヤサを青も入ん、
後、
目、
法の、
さ、
る二十、
え、
く、
新

と汽直船の二等客の言のと同様があるから
白くいものづくせよと洗つてある。その捨り
清浄である。また、寝るの上の目を洗つて
取らぬつた草草にうしろをうけり切
ぬき出されてそのうしろ寝ることも
では外にうしろをうしろ寝ることも
燈のついである。後者は、
余りかたこの寝るに十の時に
つとまの目と先かたの寝るに
ひあつた。此の寝る車の表の目を
とす。

(盛岡北町魚池田印行)

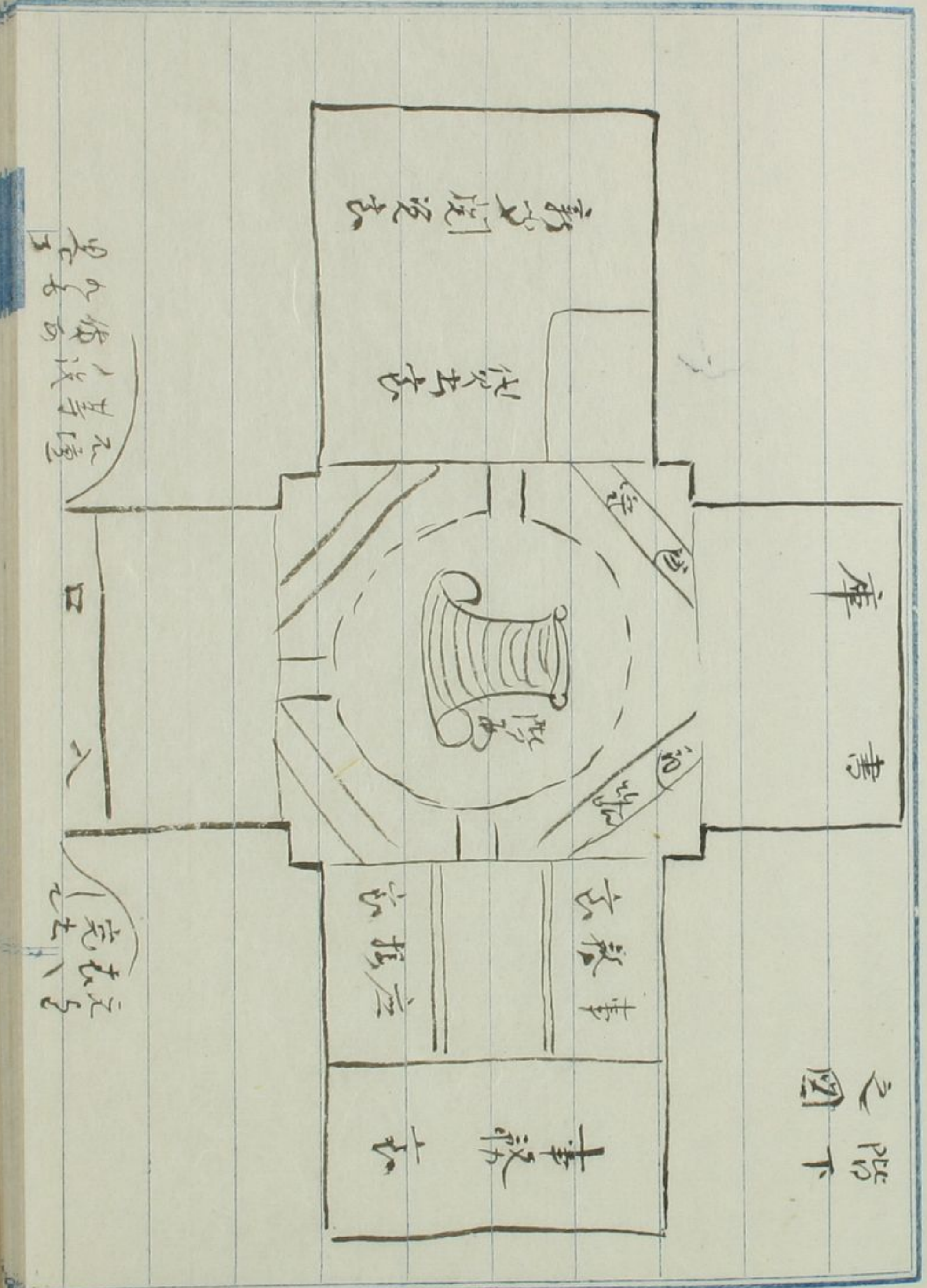
大坂の船とて、その上客の
この船は、その十の時に
と寝るに、その乗るに、
名を名を、その一海、
四回とて、その目的に、
儲けとて、その
○大坂の船とて、その上客の
ふと、その船とて、その
人が、その船とて、その

の御鑑をすまふとせん計書画をすし書款をすの
 ちうしとせやく

○やこ島の分回後ゆを今ゆきまを建の事かの中て
 ちる位支家州の圖書館を大坂市中に設けの
 ちあひあひかかかか大坂に事なふる、各々
 のらん其の設計に要略を聴えんことを願し
 位支家のの上かたかふる係館しとて、且て、同
 ちう校何の事ん品市に設けせん

望を校何を余る事てあくるニ三の圖面をせせ
 せんかかえつ其の大略を圖して、そのことを左のこ

(愛知北町為池田印行)



星の備は寺壇

完はる

せんば男を無さう無さげんハ男さうと余
ハ三の我國を治すハ男さうとさうとつ
あささうと。女性化しつてあささうと。樂と
吐きかきつるほどのさうとさうと泣きけり
さうとさうとけんはさうと

○先法を事を出さししたころを油を聞言
河津の正助殿が同族のハさうとさうとさうと
あつてさうとさうと進めさうとさうとさうと
を推さうとさうと進めし中さの壬亥念もさ
とつとし、其後限在振手の結果、おるる

(京高北町角池田印行)

古くをのさうとさうとあつてさうとさうとさうと
目的をさうとさうとさうとさうとさうとさうと
ひささ、此ごろ終つてさうとさうとさうとさうと
こさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
田中さうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
門前さうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
あつてさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
の清殿とさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
さうとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと
を排しつてさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと

徳川利家もこの大坂の戦いも徳川を討つて
さうして来たと云ふ事も其の事なりしを
其の黒く塗る所のくらくくんの田向を朱書
しつゝ其の北の徳川が人を取らざる事
所を其の北の徳川が人を取らざる事
税手取をその事なりし

○徳川の事書代々其の徳を記し此歌
外しし事も其の事なりし

(徳川北町角池田印行)

由々わき栗ののり

とてよがちしつゝ、支那の敗亡をいひしつゝ此
の歌の事なりし、松竹也其の海濱の要事なり
そとに、あつても外しし事も其の事なりし
徳川も其の事なりし、内しつゝ其の事なりし
わき栗ののり

○大坂の事書代々其の事なりし、徳川も其の事なりし
この事なりし、徳川も其の事なりし、徳川も其の事なりし
徳川も其の事なりし、徳川も其の事なりし、徳川も其の事なりし
徳川も其の事なりし、徳川も其の事なりし、徳川も其の事なりし

すしとあつ人の歎息活のまゝに
さしつかへ

○徳のまゝとてさあ人かまへて
さしつかへ七十あるをさしつかへ
さしつかへをさしつかへ
の徳をさしつかへ
おと、毛髪へのさしつかへ
牛乳のさしつかへ
さしつかへ、あつ人とあつ人と
かあつとさしつかへと笑つて居る

(室島北町角池田印行)

とあ(十ヶ月十方)と
カカア一元下は、毎
さしつかへをさしつかへ
さしつかへをさしつかへ
さしつかへ

○近年、西洋風め、さしつかへ
さしつかへ、さしつかへ
とさしつかへ、さしつかへ

あゝ

古きあゝと懐素書の手紙、徽宗帝の白
鷹、子昂の胡騎出獵、同泥金十八羅聖
馬圖の他皇帝灤陽巡幸、華荳蔻氏の白
羅漢、趙仲雅の白駿、錢舜舉の渭源
沈賢、唐伯虎の松下清談、同蜀川行旅
同南村清隱、文徵明の翠羽朝回、董其昌
の溪山雨色、沈石田の山勢日長、日十二勝
境、藍田井の関少竹霽、仇十如の松下奕
茶、韓壽平の輶馬戰馬、金冬心五蓮、麻子

(堂島北町角池田印行)

西猫宿草載醜士の漢山添雨、錢惟城の六
指清綺、通仙の氣色、苗文の圓荷

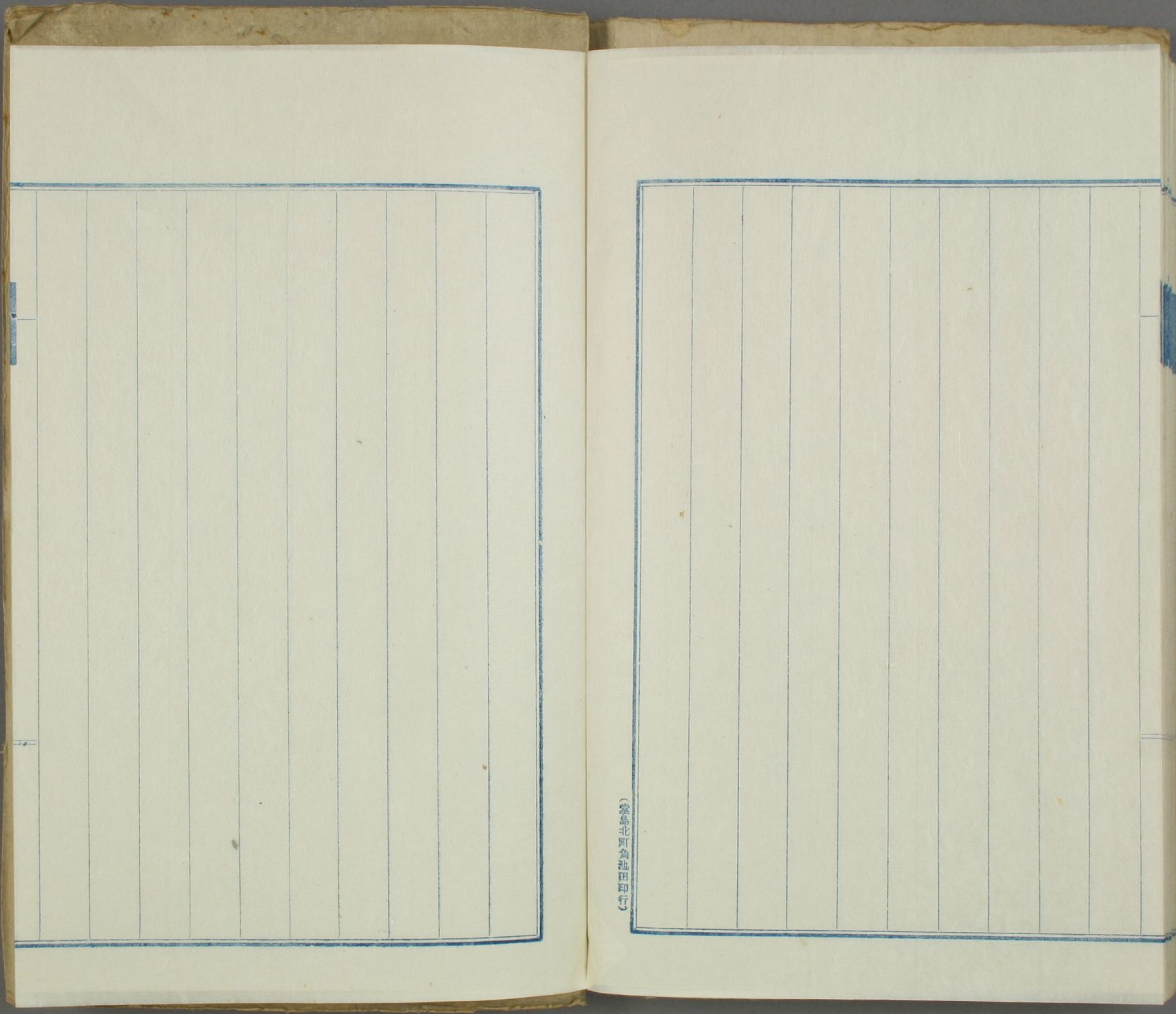
其他歷代帝王の宸翰

合計七冊共 三十五 玉共 二十五

七五 二十五 書畫 三十一 五

総共 二十一 五

〇つら〜とある今のぬい化を〜つら〜の
文の初〜あ〜のゆ〜なる〜論〜政
と〜を〜其〜而〜後〜其〜而〜行
つら〜を〜お〜め〜ま〜く〜んを



(愛知県魚池田印行)

以下全て
白紙

四月廿五日
大坂安永町

才海主人